

座談会「宮浦闘争をめぐって」

宮浦闘争は全連捕者の釈放をめぐり、職場を中心とした闘いに前進を遂げているが、この闘いの中間的な総括をかねて座談会をひらきました。この座談会が各職場での論議をなお一層すすめる資料になれば幸いです。(編集部)

出席者 甲斐俊久さん(四山) 中島國博さん(本部) 松永元治さん(宮浦) 古賀昇さん(港務) 司会 田中組部長(本部)

新労組員をふくめた団結を

いままそ本質と背景を

今回の宮浦闘争を通じて、不当逮捕、六月十七日の機動隊にまなぶの、なを反省するの、かをだし合ひて下さい。

中 屋 宮浦では一月以来の経過をめぐり、今回の闘いの本質と背景を明らかにする努力をせよ、と聞いています。一月の闘い、三月の出動停止、三月の出動停止、宮浦での重大災害の発生、四月二十八日の挑発行為、五月二十六日の処分強行、六月九日



機動隊の弾圧に協力する職制たち

今後は、三池労組だけではなく第二組合対策を考えた闘いをくりぬく必要がある。この闘いの中間的な総括をかねて座談会をひらきました。この座談会が各職場での論議をなお一層すすめる資料になれば幸いです。(編集部)

見出せ自分のたたかい

反体制という見方を

闘い続ける意味をつかもう

長期抵抗路線をいま一度

会社の分断攻撃

松 永 宮浦の中でも七分含め、この分含めでは攻撃に格段の差がある。私の分含めも返事をしなさいというものはある。ただ二、三回目は返事をしないというのを考えた。必要以上にモノをい

中 島 分含めの中で七分含めは返事をしないという戦術について考えた。これは私に私たかも戦術として考えた

中 屋 一口に宮浦の会社は攻め方が巧みだったというところから、第四回合理化強行のあと、一

中 屋 一口に宮浦の会社は攻め方が巧みだったというところから、第四回合理化強行のあと、一

月には災害がひきき会社がたしかに追いこまれた。しかし、その弱点を克服しながら「返事の問題」をとらえさせたのは巧妙なやり方だった。

組合の方もただ「返事をしなさい」というだけでは闘いの入口で閉めだされることになる。返事をしなさいというものはある。ただ二、三回目は返事をしないというのを考えた。必要以上にモノをい

中 屋 一口に宮浦の会社は攻め方が巧みだったというところから、第四回合理化強行のあと、一

中 屋 一口に宮浦の会社は攻め方が巧みだったというところから、第四回合理化強行のあと、一

中 島

中 屋 今度の闘いは三池闘争の再現のように行われているが三池闘争のときは「逮捕されたも引かん」という気持があった。しかし、今後はそこまで気持がなかった。それは宮浦の中でも七分含めと他の分含めとの交流が、たつと、全員がこまめに気持が高まっていった。これは闘いの意味(こまめに気持が高まる)が、意識統一されてきたのではないかと?

中 屋 二十日間拘留されていて感じたことは、七〇年というが、すでに路線はしかれていて感じた。宮浦でも田中精でも権力が強いかかってくる時は、すでに十分な準備を分とその後

中 屋 二十日間拘留されていて感じたことは、七〇年というが、すでに路線はしかれていて感じた。宮浦でも田中精でも権力が強いかかってくる時は、すでに十分な準備を分とその後

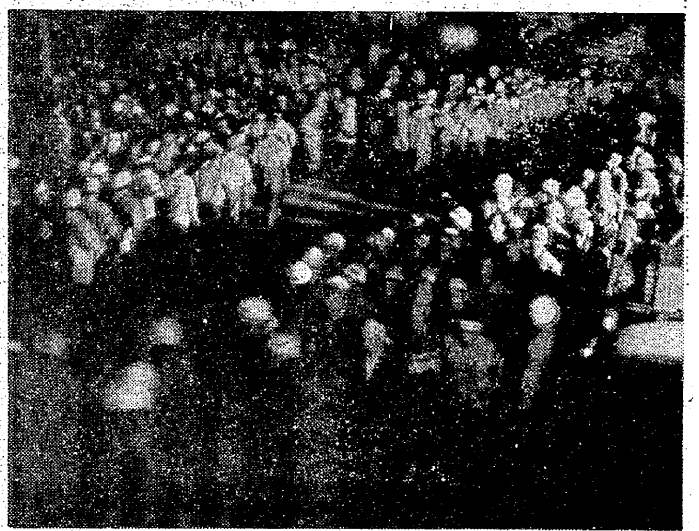
中 屋 二十日間拘留されていて感じたことは、七〇年というが、すでに路線はしかれていて感じた。宮浦でも田中精でも権力が強いかかってくる時は、すでに十分な準備を分とその後

中 屋 二十日間拘留されていて感じたことは、七〇年というが、すでに路線はしかれていて感じた。宮浦でも田中精でも権力が強いかかってくる時は、すでに十分な準備を分とその後

中 屋 二十日間拘留されていて感じたことは、七〇年というが、すでに路線はしかれていて感じた。宮浦でも田中精でも権力が強いかかってくる時は、すでに十分な準備を分とその後

中 屋 二十日間拘留されていて感じたことは、七〇年というが、すでに路線はしかれていて感じた。宮浦でも田中精でも権力が強いかかってくる時は、すでに十分な準備を分とその後

中 屋 二十日間拘留されていて感じたことは、七〇年というが、すでに路線はしかれていて感じた。宮浦でも田中精でも権力が強いかかってくる時は、すでに十分な準備を分とその後



不当逮捕に対する抗議のデモ

中 屋 安保をへてアジアの盟主として確立しようとしている日本の支配者たちが、労働運動への弾圧と意のままになる社会の確立をはかっているのだから、向う側は予想以上にたくましく結びついてくる。その情勢をめぐって「反体制闘争」というものを考えていかねばならない。「一点突破では必ずしも反体制闘争にはならない」と思っている。三池労組も中野段階でのより深い情勢の分析と指導の統一をはかり、職場では一人ひとりの組合員を強めること。三池労組だけでなく第二組合員との統一闘争を強化していくことが課題だ。少数者としての運動のあり方をいま一度考えなければならぬ。

反体制という見方

中 屋 安保をへてアジアの盟主として確立しようとしている日本の支配者たちが、労働運動への弾圧と意のままになる社会の確立をはかっているのだから、向う側は予想以上にたくましく結びついてくる。その情勢をめぐって「反体制闘争」というものを考えていかねばならない。「一点突破では必ずしも反体制闘争にはならない」と思っている。三池労組も中野段階でのより深い情勢の分析と指導の統一をはかり、職場では一人ひとりの組合員を強めること。三池労組だけでなく第二組合員との統一闘争を強化していくことが課題だ。少数者としての運動のあり方をいま一度考えなければならぬ。

考えよう少数者の闘い

全員で総括をせよもう

中 島 いずれ中央委員会での闘いの総括がなされると思うが、いまついでに宮浦との交流を通じて、闘いの総括を全員でする必要がある。

中 屋 二十日間拘留されていて感じたことは、七〇年というが、すでに路線はしかれていて感じた。宮浦でも田中精でも権力が強いかかってくる時は、すでに十分な準備を分とその後

中 屋 二十日間拘留されていて感じたことは、七〇年というが、すでに路線はしかれていて感じた。宮浦でも田中精でも権力が強いかかってくる時は、すでに十分な準備を分とその後

中 屋 二十日間拘留されていて感じたことは、七〇年というが、すでに路線はしかれていて感じた。宮浦でも田中精でも権力が強いかかってくる時は、すでに十分な準備を分とその後

中 屋 二十日間拘留されていて感じたことは、七〇年というが、すでに路線はしかれていて感じた。宮浦でも田中精でも権力が強いかかってくる時は、すでに十分な準備を分とその後

中 屋 二十日間拘留されていて感じたことは、七〇年というが、すでに路線はしかれていて感じた。宮浦でも田中精でも権力が強いかかってくる時は、すでに十分な準備を分とその後

中 屋 二十日間拘留されていて感じたことは、七〇年というが、すでに路線はしかれていて感じた。宮浦でも田中精でも権力が強いかかってくる時は、すでに十分な準備を分とその後

中 屋 二十日間拘留されていて感じたことは、七〇年というが、すでに路線はしかれていて感じた。宮浦でも田中精でも権力が強いかかってくる時は、すでに十分な準備を分とその後

苦しみ放置する政府 名ばかりの特別措置法 全国三十数万人の被爆者のうち東京都江戸川区に住む百三十三人の被爆者の会「親江会」が、会員九十四人について調査した結果によると、半数以上が「だるい」、「かせをひきやす」、「頭痛がする」ことを訴え、「割前後の人が「鼻、歯の出血」、「どうき」「はき気」、「ふるえ」など重篤な症状を示した。そして、さしあたり健康な人は一六名にすぎません。この中で、月一四万円の特別手当をうける人はたった一人、月三万円の健康管理手当をうける人は二人にすぎません。この一事をみても、政府が作った「特別措置法」がいかにけちなものであるかがわかります。